

アセスメントシート								
氏名		猪苗代 太郎		記入 相談支援専門員		六本木はやと		
日常生活面	項目		介助が いるか	程度	項目		介助が いるか	程度
	起居動作	起き上がり	☐		衛生保持	手洗い	☐	
		寝返り	☐			爪切り	☐	
	姿勢保持	座位	☐			耳掃除	☐	
		立位	☐			月経	☐	
	移動	屋内	☐		行排為泄	排尿	☐	
		屋外（徒歩）	☐		排便	☐		
	衣類着脱	着脱行為	☐		食事全般	飲食行為	☐	
		服装の選択	☐			食事状況	☐	
	整容行為	歯磨き	☒	時々めんどうになり声掛けが必要		調理全般	食事の後片付け	☐
		洗顔	☒	時々めんどうになり声掛けが必要	調理		☒	やったことがないので支援が必要
		整髪	☒	時々めんどうになり声掛けが必要	安全確認		☒	やったことがないので支援が必要
		ひげ剃り	☒	時々めんどうになり声掛けが必要	入浴全般	入浴の準備と片付け	☐	
		化粧	☐			入浴	☐	
	家事全般	洗濯	☒	やったことがないので支援が必要				
		洗濯物干し	☒	やったことがないので支援が必要				
		掃除	☒	やったことがないので支援が必要				
		衣類整理	☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要				
					所持品整理	☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要	
					ペットメイク	☐		
	特記事項							
	父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやってれていた。太郎さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまう。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験が乏しいが、援助があればできるようになると予測できる（今までの生活の様子から、父親が予測）。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。							
	コミュニケーション	困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「ひまわり」 …サービス等利用計画作成 相談支援 就労センター「スマイル」 …利用予定の就労継続支援B型 グループホーム「ピアハウス」 …利用予定のグループホーム 西村病院（内科・精神科） …外来通院先 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができていた。手順が分かれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少し混乱してしまうことがあった。						
社会参加・移動	好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど 嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人 移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もともとは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。							
経済状況	主な生活財源 生活保護受給中。 就労による収入 0円／月 預貯金 0円 ☒ 基礎年金申請中 ☐ 障害者特別手当 ☐ その他 金銭管理は、仕訳を手伝えその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。							

	項目		介助が いるか	程度	特記事項
行動面	行動面での 障害 1	こだわり行動	☒	自分の手順があり、変更されるとパニックになる	
		徘徊	☐		
		無断外出 無断外泊	☐		
		錯覚・幻視・幻聴	☐		
		被害妄想	☒	近所の人たちからバカにされていると思っている。	
		自殺願望・企画	☐		
		不潔行為	☒	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。	
		異食行為	☐		
		収集癖	☐		
		物忘れ	☐		
		反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐		
	行動面での 障害 2	自傷行為	☐		
		他者に対する 粗 暴行為	☐		
		器物に対する 粗 暴行為	☐		
		奇声や騒がしさ	☐		
		パニック	☒	物事の進め方が分からないと起きる。	
		多動・行動の停止	☐		
		思考障害	☐		
	感情障 害・思考	感情不安定	☒	困ってしまうと感情も不安定になる。	
		過大・過小評価	☐		

《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。

